

浜岡原子力発電所リプレース計画等について

2008年12月

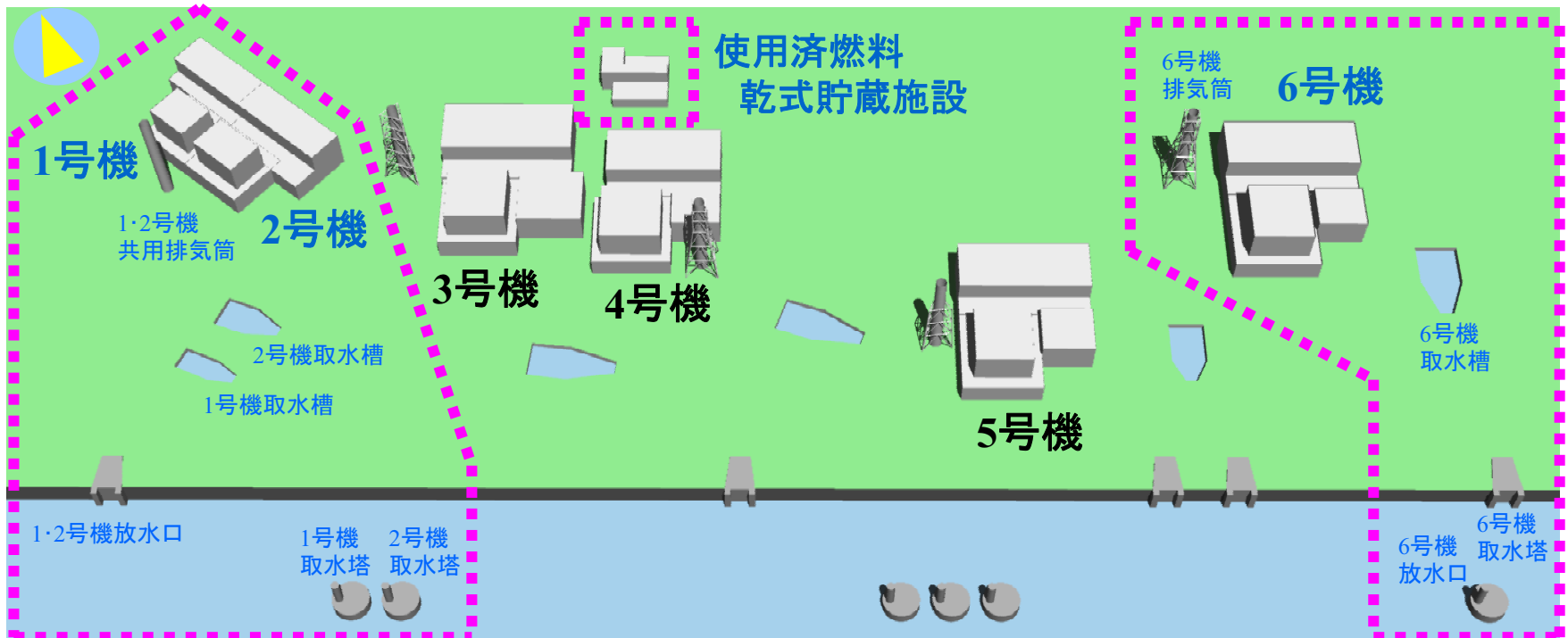
中部電力株式会社

目次

全体の計画概要(1)	(1)
全体の計画概要(2)	(2)
6号機の建設計画の概要	(3)
1,2号機の運転終了	(4)
使用済燃料乾式貯蔵施設の建設計画の概要	(5)
原子力の構成率	(6)
業績修正の概要	(7)

全体の計画概要(1)

- 1,2号機の運転を終了し、そのリプレースとして6号機の建設を計画。
- 敷地内に使用済燃料乾式貯蔵施設の建設を計画。



全体の計画概要(2)

平成20年12月

平成30年

6号機の建設

◆着工
平成27年(予定)

◆運転開始
平成30年代前半(目標)

1,2号機の廃止措置

◆廃止措置計画の検討

使用済燃料乾式貯蔵施設
の建設

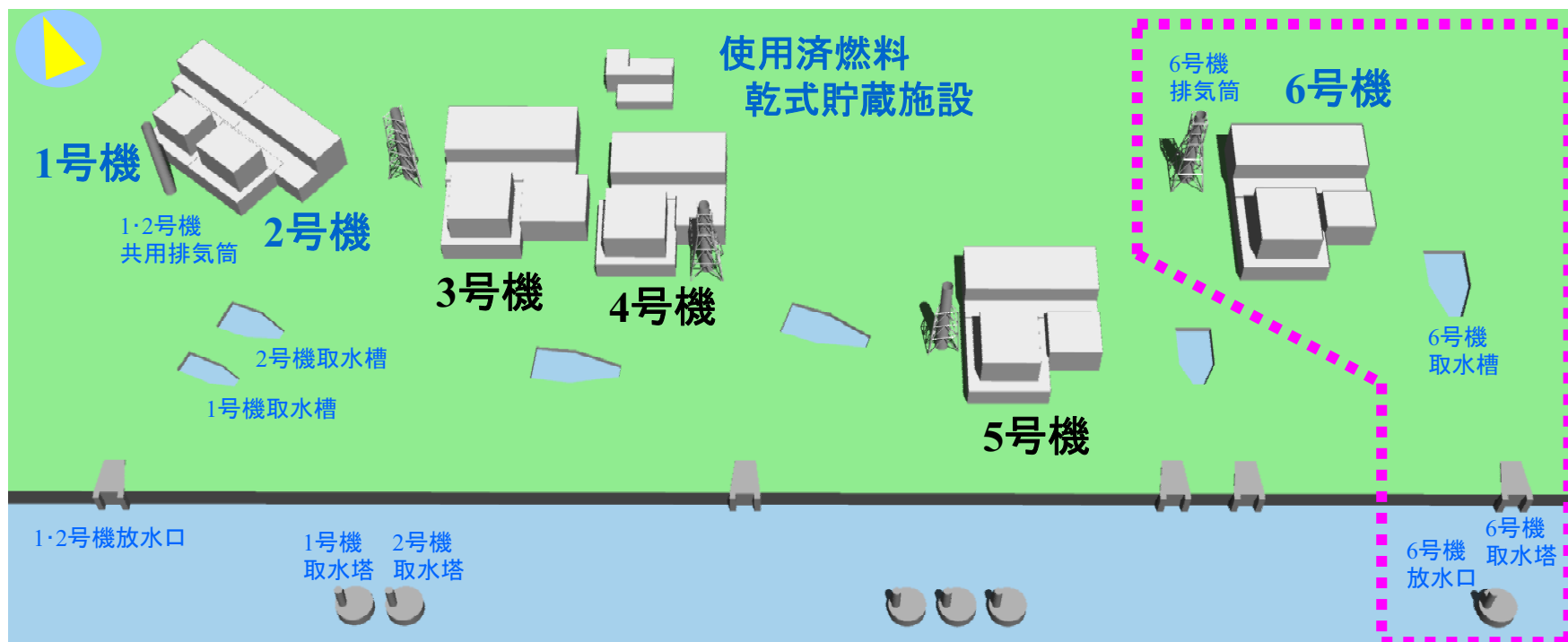
◆地質調査

◆着工

◆使用開始
平成28年度(目標)

6号機の建設計画の概要

- 5号機と同じ電気出力140万kW級の改良型沸騰水型軽水炉を採用。計画地は5号機東側で、建設に必要な用地を確保。
- 冷却用の海水は他号機と同じく取水塔および海底トンネルを設けて取水する予定。



1,2号機の運転終了

- 目標地震動(約1,000ガル)に対応するための工事に、
相当な工事費用と工事期間を要することから、1,2号機の運転再開
は経済性に乏しいと判断し、運転を終了。
- 当面は施設から燃料を搬出していくとともに、廃止措置の計画に
ついて検討を進めていく。

◆廃止措置の流れ

使用済燃料搬出

系統除洗

安全貯蔵

解体・撤去

廃棄物の処理処分

具体的な実施方法や時期
などについて計画を策定。

使用済燃料乾式貯蔵施設の建設計画の概要

- 1,2号機の運転終了にともない、使用済燃料を、両号機の燃料プールから搬出することを踏まえ、新たに、発電所敷地内に、発電所施設の一部として、全号機共用の使用済燃料乾式貯蔵施設を建設。
- 貯蔵容量は約700トン・ウラン(燃料集合体にして約4,000体)。計画地は発電所敷地内4号機の北側を予定。
- 当面は、地質調査を実施。

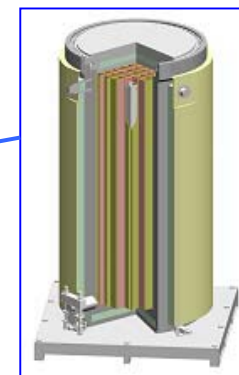
◆使用済燃料乾式貯蔵施設

使用済燃料を、再処理施設に搬出するまでの間、専用の容器(金属キャスク)に収納して貯蔵する施設。

■施設のイメージ図

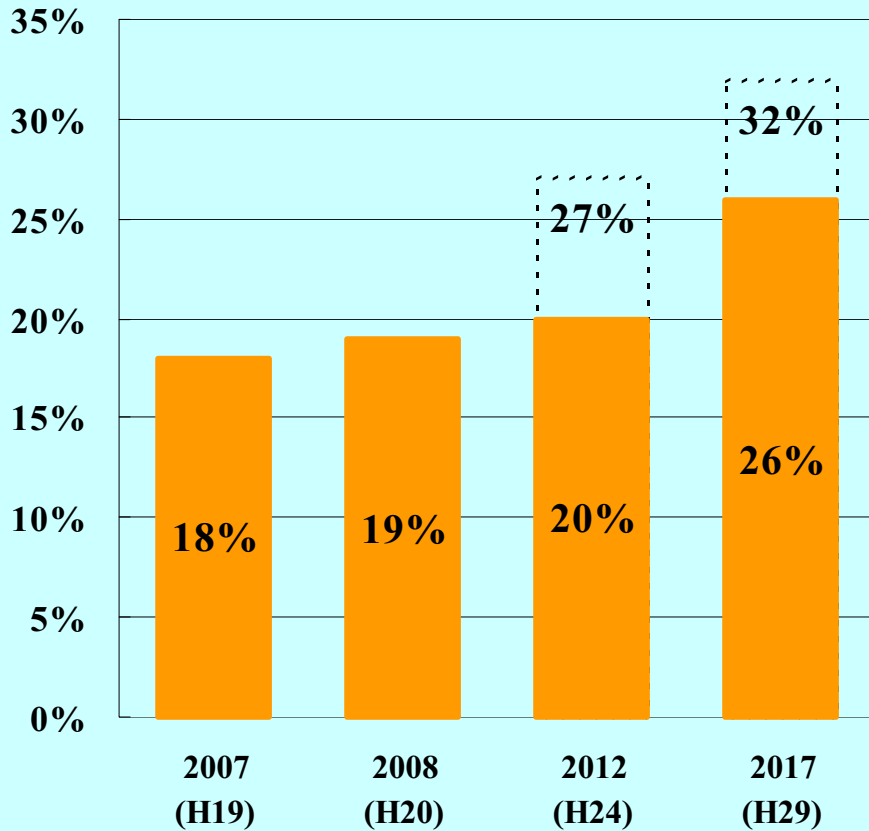


金属キャスク

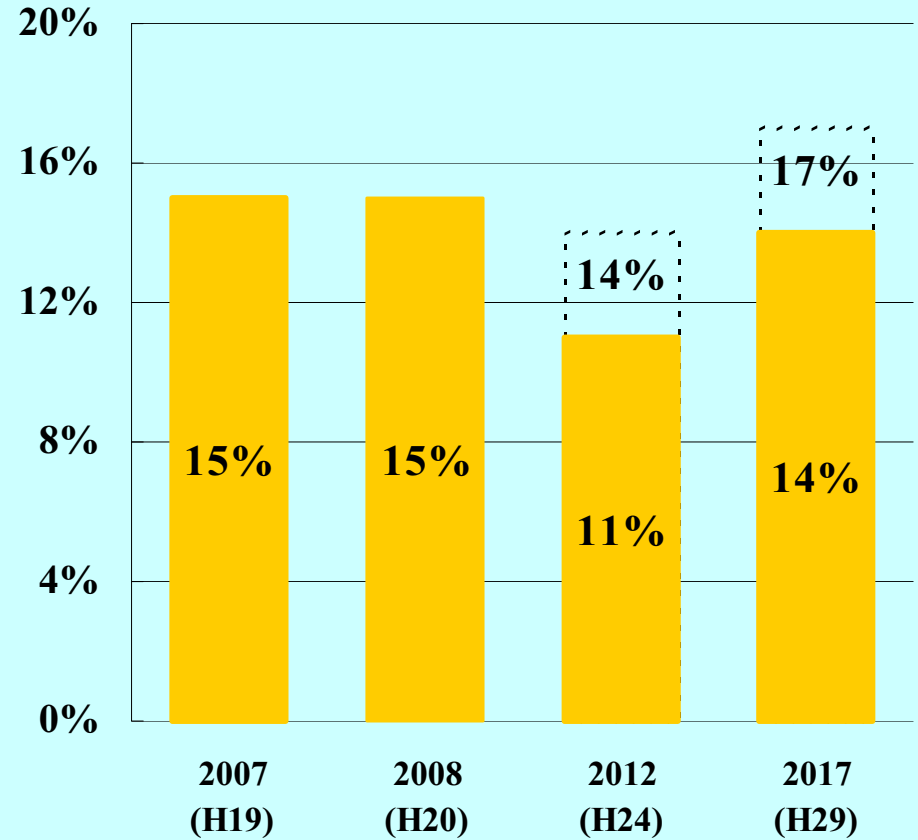


原子力発電の構成率(平成20年度供給計画ベース)

発電電力量構成比



電源設備構成比



従来計画値

※ 6号機については、平成29年度以降の使用開始となるので、上記数値には影響しない。

業績修正の概要

- 浜岡1,2号機運転終了により、特別損失を約1,550億円計上する予定。
- 業績予想の主要諸元については、前回発表予想(平成20年10月)から変更なし。
- 期末の配当金については、極めて厳しい収支状況ではあるものの、1株につき30円(年間配当金は1株につき60円)を予定。

[20年度予想]

(億円)

	[今回] (A)		[前回/10月] (B)		増減 (A)-(B)	
	連結	個別	連結	個別	連結	個別
	売上高	26,000	24,200	26,000	24,200	-
営業利益	630	450	630	450	-	-
経常利益	350	100	350	100	-	-
特別損失	1,550	1,550	-	-	1,550	1,550
当期純利益	△ 780	△ 940	220	60	△ 1,000	△ 1,000

(億円未満切り捨て)

[主要諸元]

	[今回] (A)	[前回/10月] (B)
販売電力量 (億kWh)	1,372程度	1,372程度
原油CIF価格 (\$/b)	110程度	110程度
為替レート(インターバンク) (円/\$)	106程度	106程度
原子力利用率 (%)	63程度	63程度

当資料取扱上のご注意

当資料に記載の業績見通し、ならびに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき、計画のもとになる前提、予想を含んだ内容を記載しております。

実際の業績は、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向等により、これらの業績見通しとは異なる場合がございますので、ご承知おきいただきますようお願い申し上げます。

また、当資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。